

氏 名 野 中 由美子

本 籍 福井県

学 位 の 種 類 博士（学術）

学 位 記 番 号 社博甲第 66 号

学位授与の日付 平成 17 年 9 月 30 日

学位授与の要件 課程博士（学位規則第 4 条第 1 項）

学位授与の題目 体操伝習所設立以前における「体操図解」作成の体育史的意味
(The importance of the writing of Taiso-zukai (Manual of Gymnastics) in the history of physical education before the establishment of Taiso-denshujo (Normal School of Gymnastics))

論文審査委員 委員長 大久保 英 哲

委 員 江 森 一 郎, 中 野 節 子

学位論文要旨

本研究は、わが国の近代学校体育の基礎を築いたといわれる「体操伝習所」の設立（明治 11（1878）年）以前という時期に焦点を当て、明治 5（1872）年「学制」頒布以降の主として小学校教育課程に「体操」という教科がどのように位置づけられ、その教授内容としてどのような体操教材が選択されたか、当時の体操教科への取り組みとその模索過程を明らかにすることを目的とした。体操伝習所において体操指導者が養成され全国に輩出される以前には、体操を専門に習得した小学校教員は皆無に等しかった。「体操」という新教科とその教授法を全国に伝達する役割を担ったのが、「体操図解」と呼ばれる体操解説書・指導書であった。本研究ではこの「体操図解」に焦点を当て、現存が確認できた図解計 57 冊（添付表参照）を調査し、そこに記載されている内容の分析により、当時、小学校の体操教材としてどのような体操法が選択され奨励されたか、またどのような教授法によって実践が試みられていたか、この「体操図解」の成果と限界は何であったのかを考察した。その結果、以下のことが明らかとなった。

「体操図解」は、体操単独の解説書・指導書として編纂されるか、あるいは「小学入門」解説書や小学教授書中において他教科教材に添付される形で編纂された。文部省および直轄学校編纂の教科書の翻刻許可がなされた明治 6（1873）年以降、その出版数は徐々に増加した。これらの教科書・教授書は、特に明治 8（1875）、9（1876）年には多数出版され、東京・大阪・京都など近世からの出版産業が盛んであった地域を中心に民間の出版者らにより供給された。

「体操図解」編纂に関わった人物の中には、当時の小・中学校教育、師範教育の研究および教授法の指導を実践し、全国のモデル校的立場にあった「東京師範学校」（明治 5 年設立）の卒業生や同校に参観に訪れた地方教員らがいる。彼らは、小学入門の解説書や小学教授書を編纂する中で、体操科の必要性についても言及し、「体操図解」として体操の内容と教授法を書中に掲載した。彼らの選択した体操は、明治 5 年「学制」頒布以降に文部省が初期の体操教材として例示した医療体操の系統に位置する『榊中体操法図』（明治 5 年、南校）、『東京師範学校板体操図』（明治 6 年、東京師範学校）、あるいは幕末以来わが国が軍制改革において模範とした仏式軍隊訓練の基礎的体操の一部をアレンジした体操であった。これらの体操を小学校児童の心身の健康と安全に配慮し、教師の号令指示による

教授法とともに「体操図解」という形で紹介した。あくまで、小学校の正課授業間の5～10分程度、一日の全課業終了時の30分程度に実施される、倦怠感の解消や気晴らし、あるいは血流や正常な筋骨の維持など生理学的効果を期待した保健衛生的体操であった。「体操図解」は、東京師範学校等で指導されたこの体操を小学校教科課程の中に位置づけ、体操法を図と解説によって可視化し、人々に啓蒙する役割を果たした。健康維持のために選定された体操は、西洋移入の新奇な体操であり、教師の号令指示による一斉教授法と身体部分の動作を一定の秩序に準じて操作する形式的な体操であった。これらの体操は、人々の奇異なまなざしや学校で実施することに対する抵抗を受けつつも、教則や教授書の中で学校児童生徒に適当な運動法として奨励されていった。

しかし、実際に学校での実施を試みるとき、この西洋移入の体操法は教師によって教授されなければならない、その教師でさえも経験のない者がほとんどであった。教師が手がかりとしたのは、東京師範学校をはじめとした師範学校における教授実践の参観と講習、あるいは「体操図解」のような体操手引き書からの情報であったと思われる。短期間の講習や、体操を図と文章で解説した「体操図解」では、実技教科である「体操」の習得は困難であった。「体操図解」は、小型本に縮刷され、あるいは安価で提供され、あるいは解説文が詳細になるなど実用化に向けた様々な工夫が試みられるが、文字化・図式化された「マニュアル」のみによる体操教授には限界があった。「体操」という実技教科には、実際に体操動作や教授法を体得した教員が求められる。この体操専門の教員養成に着手したわが国最初の事業が明治11年「体操伝習所」の設立であった。

「体操図解」による体操普及の限界は、体操伝習所の体操法研究と、全国への体操教員派出により克服されていくが、彼らが全国に普及した体操法もまた、保健的体操法の域を脱しておらず、「体操図解」で紹介された体操と同系統の医療体操と呼ばれるものであった。従って、「体操図解」は明治初年の近代学校教育発足期に、保健的体操を小学校教育課程の中に例示し、実践を奨励するという先駆的役割を果たしたのである。図と文章による体操マニュアルは、明治10年代以後も体操指導書として編纂され出版されていくが、特に、体操伝習所卒業生により編纂された体操指導書は明治15(1882)年以降多数出版され、全国への体操普及に大きく貢献した。しかし、この体操教授書と体操普及の背景には、体操専門教員の存在があった。彼らはまた、自らの身体による体操法の伝達を可能にし、体操を行う身体を可視化したと言えよう。

身体的技能の習得を伴う実技教科には、その方法を熟知した指導者の存在が不可欠である。この点は、体操以外の実技教科である図画や音楽といった教科にも共通して言えるだろう。図や文章などの記号化された情報のみでは、身体的技能の習得は不可能である。また、身体の動きや状態を文章化することには一定の限界を伴う。本研究は、結果的にこのような実技教科における特性と指導者の必要性を歴史的に検証する研究となった。

【表】 明治初期「体操図解」一覧

No.	出版年	(明治年)	出版月	著者・編者	書名	出版地域	所在※
1	1874	7	5	田中義廉 問、土方幸勝 輯	師範学校小学教授法附録	東京	国会
2	〃	〃		田辺良作 著	小学必携体操図解	不明	国会
3	〃	〃	11	天野皎 編	体操図解	大阪	教研
4	〃	〃	9	鳥海弘毅 編纂	飾磨県下等小学授業法	姫路	東書
5	1875	8	6	〃	飾磨県下等小学授業法 (二)	〃	国会
6	〃	〃	1	上野彰、佐野嘉衛 著	度会師範学校小学教導図解	伊勢山田	東書・国会
7	〃	〃	2	小倉庫二 編	小学教方箋蹄 (下)	東京	東書・筑波
8	〃	〃	3	杉景俊問正、松川半山 篇画	師範教授小学生徒必携	大阪	国会
9	〃	〃	6	村田与平 図解	小学入門読本附体操略解	京都	東書
10	〃	〃	6	加島喜一郎 約解	小学入門約解	尾張	東書
11	〃	〃	7	水溪良孝 図解	小学入門便覧	京都	筑波
12	〃	〃	8	書学教館蔵	小学生徒教授法	甲府	東書
13	〃	〃	9	大森鼎三 訓点、詳解	小学入門教授本	大阪	国会
14	〃	〃	10	証木正太郎 解	小学入門教授本	大阪	教研
15	〃	〃	11	杉景俊問正、松川半山 篇画	改正小学生徒必携 一名教師心得	大阪	国会
16	〃	〃	11	陶山直良 注解	小学入門教授書	大阪	教研
17	〃	〃	12	松川半山 註解	童蒙画引小学入門	大阪	東書
18	〃	〃	12	伴源平 訓点解	小学入門教授略解	大阪	秩父宮・国会
19	〃	〃	12	松山若冲 撰	新撰体操図解	静岡	国会
20	1876	9	2	狭川峯二 著	小学入門大全	大阪	国会
21	〃	〃	2	速見岩吉解	小学入門辨解	兵庫	同志社大
22	〃	〃	2 (版権)	城谷謙 著	体操図解	京都	国会
23	〃	〃	2	水溪良孝 図解	増補小学入門便覧	京都	東書
24	〃	〃	3	家原政紀 編	小学入門和解	大津	国会
25	〃	〃	3	中川正有 編	小学入門教授用法	名古屋	国会・教研
26	〃	〃	3	岩崎広人 編	改正小学入門原解	伊勢山田	東書・筑波
27	〃	〃	5	乙葉宗兵衛 編	小学入門懸図便覧註解	京都	国会
28	〃	〃	6	山崎勝二郎	入門改正小学教授法	大阪	国会
29	〃	〃	7	河辺彦亮 著	小学入門生徒便覧	大阪	国会
30	〃	〃	8	大喜仲宣 編	体操教授方法	名古屋	国会
31	〃	〃	8	青木輔清 編	師範学校改正小学教授方法	東京	東書・国会
32	〃	〃	11	土橋鶴三 図解	改正小学入門図解便覧	京都	国会
33	〃	〃	11	森本太助 出版	小学入門	大阪	国会
34	〃	〃	11	山川良峯 著	小学入門要覧	大津	国会
35	〃	〃	11	松川半山 註解並画	小学教授便覧	大阪	国会
36	〃	〃	12	柳河梅次郎 傍訓	掌中小学入門	東京	国会
37	1877	10	1	証木正太郎 注解	小学入門教授便覧	大阪	国会
38	〃	〃	2	津田敬之 編	訂正音訓小学入門詳解	京都	国会
39	〃	〃	4	松川半山 編	小学入門教授附録 (訂2版)	大阪	国会
40	〃	〃	5	松田錠蔵 著	増補小学入門読本	京都	国会
41	〃	〃	12	中村毎 編	校正小学入門教授法	大阪	教研
42	〃	〃	12	藪内勝繁編、合志林蔵校問	改正小学教授校本	東京	筑波・教研
43	1878	11	1	新井小八郎 著	改正掛図生徒教授法	兵庫	東書・国会
44	〃	〃	1	小林義則 編	小学教授要本	横浜	東書
45	〃	〃	2	師範学校編、田中樸太郎注解	増訂小学入門便覧	大阪	国会・東書
46	〃	〃	2	大場助一 註譯	小学教授本	東京	国会
47	〃	〃	4	藤井惟勉 編	小学入門授業法	東京	東書・国会
48	〃	〃	6	師範学校	銅版小学入門	東京	筑波
49	〃	〃	6	安倍為任 出版	小学入門法	東京	筑波
50	〃	〃	6	浦名熊之助 編	小学入門必携	大阪	国会
51	〃	〃	7	田中鼎 編	小学授業法指掌 下	長岡	国会 (巻之一)・教研 (上下巻)
52	〃	〃	7	長瀬寛二 編	小学入門教授解	岐阜	教研
53	〃	〃	9	北川半蔵	小学入門手引便覧	京都	国会・東書
54	1880	13	5	長瀬寛二 編	初学入門教授解	岐阜	教研
55	〃	〃	12	白石時康 編	小学教授本	仙台	教研
56	1882	15	6	榊原英吉 編	小学指教連語図便覧	大阪	国会
57	不明	不明	不明	前田 版	絵本体操図	大阪	筑波・秩父宮

※ 所在の略称「国会」: 国立国会図書館、「東書」: 東京書籍教科書図書館 (東書文庫)、「教研」: 国立教育政策研究所教育図書館、「秩父」: 秩父宮記念スポーツ図書館、「筑波」: 筑波大学、「同志社大」: 同志社大学附属図書館

Abstract

Physical education in Japan is built on the base of the establishment of *Taiso - denshujo* (Normal School of Gymnastics) in 1878. The historical role played by *Taiso - denshujo* in the study of physical education in Japan is evaluated through studies from the points of view of the educational system, educational policy and the activities of graduates of *Taiso - denshujo*.

However, even before the establishment of *Taiso - denshujo*, after the announcement of the new 'Gakusei' system in 1872, during the reformation of the Japanese educational system and the introduction of Western ideas, gymnastics became part of the educational curriculum and research into and trials of equipment and teaching methods began. This study investigates this period of research and trial in the early Meiji Era, before the establishment of *Taiso - denshujo*, by taking as its focus *Taiso - zukai* (Manual of Gymnastics) .

Taiso - zukai introduced and explained the free gymnastics and play that had been chosen to ensure the health of primary school children. Graduates and teachers who came to study at Tokyo Normal School, where this type of gymnastics was being taught, wrote many of the volumes in the *Taiso - zukai* collection. These were intended to be either manuals and teaching guides for gymnastics, or appendices to general primary school teaching guides. *Taiso - zukai* introduced the group style of gymnastics brought in from the West through illustrations and explanations, and helped to spread practice of the new methods. However, the teaching and learning of a practical subject such as gymnastics using manuals alone is very difficult, and so of course the presence of trained gymnastics teachers became essential. The almost complete lack of such trained teachers put a halt to the popularisation of *Taiso - zukai*. In order to overcome the problems within gymnastics, *Taiso - denshujo* (Normal School of Gymnastics) was established in 1878.

論文審査結果の要旨

本研究は、わが国の近代学校体育の基礎を築いたといわれる「体操伝習所」設立（1878）年以前に発行された、国内に現存が確認できるほぼ全ての「体操図解」計 57 冊を調査収集し、それらの記載内容の形式や掲載されている体操の動作記述の比較検討を行って、わが国近代体育の模索期において小学校体操教材としてどのような体操法が選択され、どのような教授法によって実践が試みられていたかを明らかにするとともに、この「体操図解」の成果と限界を考察することによって、その歴史的な位置づけを図ろうとした研究である。こうした近代体育模索期の「体操図解」はこれまで個別的・断片的に紹介されてきたに過ぎず、本研究によって初めてその全体像と系統性が明らかにされ、またそれらを通して、近代体育史上「空白期」と見なされがちであったこの期の体操実践に向けた努力が「体操図解」出版という形をとって各地で真剣に行われていた事実を知ることができる。

本研究は序章、本論 3 章、結章から構成されている。第 1 章は、後に刊行される「体操図解」に転載されていく元となった文部省とその直轄学校、陸軍省において研究され、翻訳・出版された「体操図解」について、出版目的や経緯、記述内容について検討している。第 2 章は 57 冊の「体操図解」の記述内容を分析し、①「体操之図」（挿し絵型）②「児童遊戯の図」と徒手体操（伊勢山田版）など 11 種の系統に分類できるとしている。第 3 章は「体操図解」の成果と異議、その限界について次のような考察を加えている。

「体操図解」は、体操単独の解説書・指導書として編纂されるか、あるいは「小学入門」解説書や小学教授書中において他教科教材に添付される形で編纂された。文部省および直轄学校編纂の教科書翻刻許可がなされた明治 6（1873）年以降、その出版数は徐々に増加した。これらの教科書・教授書は、特に明治 8（1875）、9（1876）年には多数出版され、東京・大阪・京都など近世からの出版産業が盛んであった地域を中心に民間の出版者らにより供給された。

「体操図解」編纂に関わった人物の中には、当時の小・中学校教育、師範教育の研究および教授法の指導を実践し、全国のモデル校的立場にあった「東京師範学校」（明治 5 年設立）の卒業生や同校に参観に訪れた地方教員らがいる。彼らは、小学入門の解説書や小学教授書を編纂する中で、体操科の必要性についても言及し、「体操図解」として体操の内容と教授法を書中に掲載した。彼らの選択した体操は、明治 5 年「学制」頒布以降に文部省が初期の体操教材として例示した医療体操の系統に位置する『榎中体操法図』（明治 5 年、南校）、『東京師範学校板体操図』（明治 6 年、東京師範学校）や、あるいは幕末以来わが国が軍制改革において模範とした仏式軍隊訓練の基礎的体操の一部をアレンジした体操であった。いずれも小学校児童の心身の健康と安全に配慮し、教師の号令指示による教授法とともに「体操図解」という形で紹介したものであり、小学校の正課授業間の 5～10 分または 30 分程度実施される、倦怠感の解消や気晴らし、あるいは血流や正常な筋骨の維持など生理学的効果を期待した保健衛生的体操であり、教師の号令指示による一斉教授法と身体部分の動作を一定の秩序に準じて操作する形式的な体操であった。「体操図解」は、東京師範学校等で指導されたこの体操を小学校教科課程の中に位置づけ、体操法を図と解説によって可視化し、人々に啓蒙する役割を果たした。

結論（結章）では以下のように述べる。西洋移入の近代的な体操法は教師によって教授されなければならなかったが、その教師は全くの未経験者がほとんどであった。そうした教師が手がかりとしたのは、東京師範学校をはじめとした師範学校における教授実践の参観と講習、あるいは「体操図解」のような体操手引き書からの情報であった。だが、短期間の講習や、体操を図と文章で解説した「体操図解」では、実技教科である「体操」の習得は困難であった。「体操図解」は、小型本に縮刷され、あるいは安価で提供され、あるいは解説文が詳細になるなど実用化に向けた様々な工夫が試みられるが、文字化・図式化された「マニュアル」のみによる体操教授にはおのずから一定の限界があった。「体操」という実技教科には、実際に体操動作や教授法を体得した教員が不可欠であった。この体操専門

の教員養成に着手したわが国最初の事業が明治 11 年の「体操伝習所」設立であった。

本研究ではこのように、「体操図解」の一定の成果と限界が体育内容の精緻化と教員養成とを目的とした「体操伝習所」に結びついていったと主張する。こうした見解は従来見られなかった新学説として、学会に寄与するものと評価できる。全国に散逸する資料収集努力とそれらの丹念な分析をもとにした考察、それらから導き出された新たな知見を含んだ本研究は、学位（学術）論文として十分な水準に達しており、審査員全員一致をもって合格と判定した。